

吉田文一特別顧問を偲ぶ会



令和4年6月1日(水)
(一社)青色21ネットワーク研究会

ホテルクラウンパレス浜松 4階 芙蓉の間



次 第

1. 開会のことば
1. 黙 祈
1. 指 名 献 花
1. 献 花
1. 略歴・功績紹介
1. お別れのことば
(主催者代表あいさつ)
1. 寄せることば
1. 献 杯
1. 会 食
1. 閉会のことば



吉田文一氏 略歴・功績

【略歴】

大正15年4月18日 生まれ（大分県）

陸軍予科士官学校を経て、東京帝国大学 農学部 卒業

≪青色申告会関係≫

昭和27年	東京青色申告会連合会	勤務
昭和36年	全国青色申告会総連合	事務局次長
	東京青色申告会連合会	事務局長
昭和45年	全国青色申告会総連合	事務局長
昭和53年	全国青色申告会総連合	常務理事（兼務 事務局長）
	東京青色申告会連合会	常務理事（兼務 事務局長）
昭和58年	全国青色申告会総連合	専務理事
	東京青色申告会連合会	専務理事
平成2年	全国青色申告会総連合	副会長
	東京青色申告会連合会	副会長
平成9年	全国青色申告会総連合	特別顧問
	東京青色申告会連合会	特別顧問
平成11年	全国青色申告会総連合	相談役
	東京青色申告会連合会	相談役
平成13年	退任	
平成15年	青色21ネットワーク研究会	特別顧問
平成24年	（一社）青色21ネットワーク研究会	特別顧問

≪公職≫

平成2年～平成12年
政府税制調査会 特別委員

【功績】

青色専従者給与制度・みなし法人課税制度・青色申告特別控除制度の創設及び青色申告会の
社団法人化等に大きな貢献をされました。

【表彰歴】

昭和37年	納税表彰（東京国税局長表彰）
昭和52年	納税表彰（国税庁長官表彰）
平成5年	納税表彰（大蔵大臣表彰）
平成9年	勲五等双光旭日章

【主な著書】

税務署なんか怖くない（産経ビジネス）、所得税100問100答（同文館）
個人企業における家族の月給制（同文館）、日本の税金（同文館）



お別れの言葉

吉田先生、「先生ご逝去」の悲報に接し、私共は、未だに気持ちの整理がつかず悲嘆にくれております。

青色活動に、先生が残されたご功績を考えれば、まさに「太山崩れんか、梁柱砕けんか」の想いです。

今、こうして、先生の遺影を拝見しつつ「お別れの言葉」を申し上げなければならないこと自体が、信じられません。

平成4・5年頃、都市部の青色申告会では、社団法人化への機運が高まり、多くの社団法人青色申告会が誕生致しましたが、将来に向けての会活動推進のためには様々な知識や情報が、不足しておりました。

こんな状況を見かね、手を差し伸べて下さったのが、吉田先生です。文字通り「立って暁鐘を撞く」が如く熱意で各地を行脚し、ご指導くださいました。こうした中で、吉田先生の忘れられない思い出が多々ございます。

ご講演の際にはいつも、深々と、頭を下げられ「皆さんこんにちは、吉田でございます」という第一声。今日も、先生の声が、そこから聞こえてくるような気が致します。

薬師寺の高田好胤老師の著書の中に、「その人のことを知る人がいなくなった時、それが、その人の本当の臨終だ」という一節があります。私共、多くの青色関係者が、先生のお声を、お顔を、お話を、胸に抱き続ける限り、先生は生きていらっしゃるのかもしれない。

また、研究集会では、色々な所にご一緒させて頂きました。先生のお話には、いつも、柔らかな微笑と、思いやりと、優しさが溢れていました。「全国の青色会員を束ね、牽引するためには、こうでなくてはいけないんだな」と、いつも思っておりました。

先生の様になりたい、先生のようにありたいと、願っても決して至ることのできない高み・極み。そして、余人をもって代え難い。私共にとって、吉田先生は、そんな存在でありました。

先生のご逝去を想えば、移り行く季節も色褪せて感じられます。しかし、先生が、いつも仰っていた、「強く正しく・正直者が馬鹿を見ない」と云う、青色の心は、いつも、私共の胸に、息づいております。

先生、お慕いする、私共の声が聞こえますか。哀しみに乗せてお届けいたします。

最後になりますが、先生の御霊安らかなれと、全ての神仏にお祈り申し上げお別れの言葉といたします。

令和4年6月1日

(一社)青色21ネットワーク研究会
会長 伊藤 升 吾